

ACKG 3年後売上高400億 8重点化事業を拡大

ACKグループは、2013年9月期の受注高378億6300万円、売上高326億9600万円に対し、3年後の16年9月期はそれぞれ420億円、400億円を目標

としていることを明らかにした。目標達成には、防災やインフラ保全・運営管理など8つの重点化事業の拡大が不可欠で、同事業の受注は13年9月期の約140億円を、3年後

は220億円に伸ばす方針だ。

廣谷彰彦社長は今後3年間の投資について、「事業開拓に10億円、組織や人材に5億円、6億円、ITC（情報通信技術）を含めた基盤整備に10億円、15億円を計画している。先行投資を果敢に進めないと勝てない」と述べた。

重点化の1つである再生可能エネルギーで、子会社のアサノ大成基礎エンジニアリングが、エネフォレスト（本社・大分市、木原倫文社長）と「大分地熱開発」を設立、大分県内で400キロワット級の地熱発電事業に着手した。15年から売電を開始、将来的には1000〜3000キロワット級の発電所を数カ所運営する計画だ。